

# 柳川生まれの水彩・パステル画家 富安道義

市史研究員 植野健造

富安道義については、『柳川文化資料集成第三集 柳川の美術Ⅰ』2005年の「第五章 近代の洋画」で取り上げましたが、その時点では実作品について所在を確認できていませんでした。その後、ご遺族が柳川に在住していることが分かり、2013年に遺作を調査することができました。ここに作者の履歴と2点の作品図版を紹介します。

富安道義(1887～1960)は明治20年8月12日、柳河町(現在の柳川市京町29番地)に、富安源次郎、静の長男として生まれる。福岡県立中学伝習館を卒業後、早稲田大学に入学するが、好きな洋画の道に進むため中途退学する。習画時代の詳しい経歴は不明であるが、油彩画を石井柏亭、真野紀太郎らに学び、水彩画は丸山晚霞の指導を受け、赤城泰舒とは親しい間柄にあった。さらにパステル画を矢崎千代治に師事したものとみられる。柳川に帰郷後は、郵便局の経営や八女市(旧黒木町)で教員を務めながら制

作を続けたが、水彩画とパステル画を専門とした。日本水彩画会展や日本パステル画会展へもたびたび出品入選し、昭和8年頃には日本水彩画会会員となっており、中央画壇との結びつきは続いた。富安道義は大正期から昭和戦前期にかけての柳川の美術普及の中心的存在の一人であり、水郷社や柳河パステル画会でも会長をつとめた。第二次世界大戦前に大分県別府市春木町に転居する。同地においても自らの制作を続けるかたわら、画塾を主宰し、後進の指導にあたった。昭和35年6月29日、死去。

今回紹介する《秋の日》は大正3年作の水彩画で、右下に「1914./M.TOMIYASU」とあり、裏面には「福岡縣山門郡柳河町大字瀬高町二丁目/富安道義/画題：秋の日(水彩画)/年月日：大正三年九月廿三日写生/同 廿四日/時間：午前九時より十一時まで/天候：快晴/場所：筑後柳河」「三年九月廿三日午前九時十一時」の書き込みがあります。もう一点の《柳川真景 其三》は大正6年作の水彩画で、左下に「M.TOMIYASU/1917」、裏面に「柳川真景 其三」の書き込みがあります。

ご遺族の証言によれば、1970年代に柳川市京町の野口めがね店で回顧展を開催したとのことなので、作品や情報をお持ちの方は、柳川古文書館の市史編さん係までお知らせいただくと幸いです。



富安道義《秋の日》大正3年(1914)、水彩・紙、額装、51.7×34.3cm、個人蔵



富安道義《柳川真景 其三》大正6年(1917)、水彩・紙、35.0×52.1cm、個人蔵



【写真2】東上町の雌大蛇(昭和38年)



【写真1】旧北二重地区の雄大蛇(昭和38年)

市史編さん係では、古い写真や絵はがきの提供をお願いしています。昨年には中島の飯屋さんから、戦時中の中国大陸での軍隊生活の様子や、昭和30年代頃の中島町の漁港の様子などの写真を提供していただきました。今回は7月号ということで、その中から中島祇園祭りの写真を取り上げて紹介したいと思います。

夏の無病息災や豊作豊漁を祈願する祇園祭りは、柳河藩祖立花宗茂が祇園神を信仰していたことから、旧柳川藩や三池藩域では地域ごとに盛んに行われていました。中でも三池に古くからある龍神信仰が祇園信仰と結びついた大蛇山祭りは、この地方独自の勇壮な祭りとして知られています。

中島祇園祭りは、祭りを奉納する八剣神社が建立された天保14(1843)年に始まったと伝えられ、この地区では「祇園さん」と呼ばれ親しまれてきました。大蛇山のほかにも踊り山や獅子山、殿様行列などが祭りを盛り上げます。

今は東上町が大蛇山を出していませんが、かつては東上町とともに旧北二重地区も大蛇山を奉納していました。写真は、昭和38(1963)年の祇園祭りの旧北二重地区の大蛇山【写真1】と、東上町

## 中島祇園祭りの大蛇山

市史編さん係 伊東かおり

の大蛇山【写真2】です。見比べてみると、ずいぶん見た目や形が違ふ印象を受けます。また、祭り当日には、男たちが八剣神社の札が貼られたそれぞれの蛇の目を奪い合う「目玉取り」も行われ、その激しい争奪戦は「喧嘩祭り」と呼ばれるほどでした。ただ、「目玉取り」は写真の年に事故が発生してとりやめとなり、旧北二重区の大蛇山も廃止されています。

当時、この2台の大蛇山は雄と雌に区別され、旧北二重地区は雄、東上町は雌とされてきました。今でも大牟田市の大蛇山まつりでは、本町(旧柳川藩領)が雄の大蛇山を、新町(旧三池藩領)が雌の大蛇山を繰り出しており、祭りの際には2台の大蛇山が尻尾を打ち合う交尾・競演が行われています。同様のパフォーマンスは中島祇園祭りでも行われていたのでしょうか? ご存じの方がいらっしゃいましたらご教示いただければと思います。

市史編さん係では、こうした地域の祭りや行事を写した昔の写真や、より幅広く調査・収集したいと考えています。どのようなものでも結構ですので、お持ちの方がいらっしやいましたら古文書館までお知らせください。